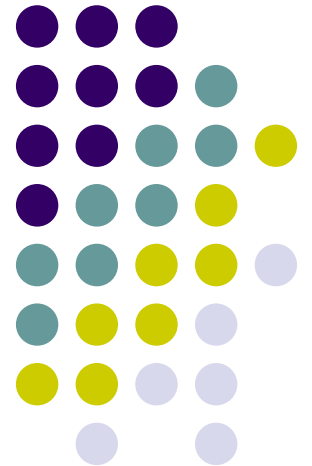
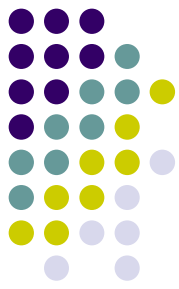


中国西南民族史

9. 南詔国後半期の対外遠征 (9世紀後半)





世隆(酋龍)時期の対唐遠征

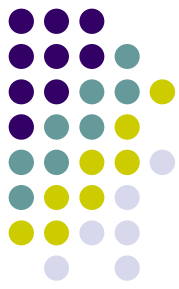
- 世隆、皇帝を自称し、元号を建てる
(唐朝の秩序からの離脱宣言)
- 859末 播州(貴州遵義)を攻撃

以後十数年間に渡って戦争状態が続く(表9.1)



安南(交趾)方面への遠征

- 846、858年にすでに「蛮寇安南」という記事あり
(南詔国が関与しているかどうか不明)
- 860.12 段酋遷の率いる三万余の南詔軍(白衣没命軍)、安南都護府(ハノイ)を攻略、これを陥す
(史料9.4)
(史料は李涿の現地住民に対する横暴が原因と説明)
(史料9.2 ~ 4)
- 861.6 唐軍、安南を奪還
7月 南詔軍、邕州(広西南寧)を陥す



安南(交趾)方面への遠征

- 862.2 **ふたたび安南侵攻**
唐は中原(河南・江南)から三万の援軍を送りこれを防ぐ
- 862.11 **5万の南詔軍が交趾城を攻撃**(史料9.5)
翌年1月、**交趾城陥落**(9.6)
(経略使蔡襲の幕僚樊綽、印を携え紅河に浮び逃れる)

866年7月まで3年半にわたり交趾城を占拠



安南侵攻の主導的人物

- 段酋遷 (安南節度使)
楊思縉 (善闡節度使) (= 柘東節度使)
楊忠義 (柘東判官)
楊緝思 (善闡節度使)
范昵些 (安南都統)
趙諾眉 (扶邪都統) (表9.1 / 史料9.8など)
- 安南節度(使)は占領時に臨時設置 (*cf.* 鉄橋節度)
- それ以外は柘東節度関係者が多くを占める



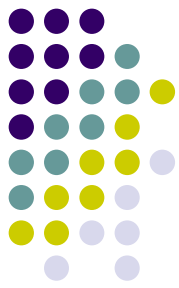
高駢による交趾城奪還

- 864.7 驍衛將軍 (=禁軍) 高駢、
安南経略使となる

- 866.6 高駢、交趾城を包囲 (史料9.7)

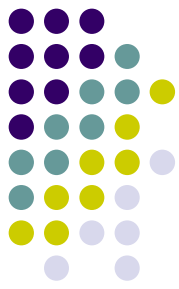
11月 交趾城を回復、段酋遷・朱道古らを斬る

(「土蛮の南詔のために郷導せし者」)



剣南西川(成都)方面での紛争

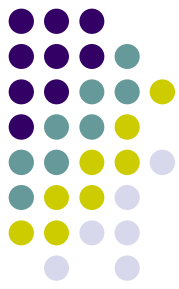
- 861.7 / 863.12 ~ 864.1 / 864.7 / 865.4
 蘆州攻撃
- 清平官董成ら成都に至る(史料9.8)
 西川節度使李福との間で儀礼を巡って紛争
 (「驃信はすでに應天順人、我節度使に見えるにまさに
 抗禮たるべし」)
 李福は董成を捕え、投獄
 866.3 新任の節度使劉潼、これを釈放



劍南西川方面への遠征

- 869 楊酋慶を遣し、董成の釈放を謝す
定辺節度使李師望、楊酋慶を殺す
- 869.10 「南詔驃信酋龍傾国入寇す」(史料9.9)
翌年正月 成都城下に至る
約一月間成都を包囲(史料9.10)

成都城攻略は果たさず退く



劍南西川方面への遠征

- 874 再び西川攻略

11月 大渡河渡る

12月 黎州・雅州 を陥す

唐朝は高駘を再起用 (史料9.11)

「河東、山南西道、東川の兵を發しこれを援く。なお天平節度使高駘に命じ西川を詣で蛮事を制置せしむ」

南詔軍もこれを聞き退却 (875.正月)

- 876 高駘に使者を送り講和を求める

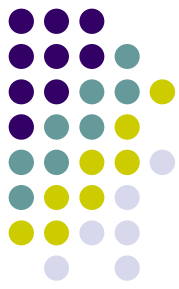
昆明から成都へ向かう鉄道



大渡河



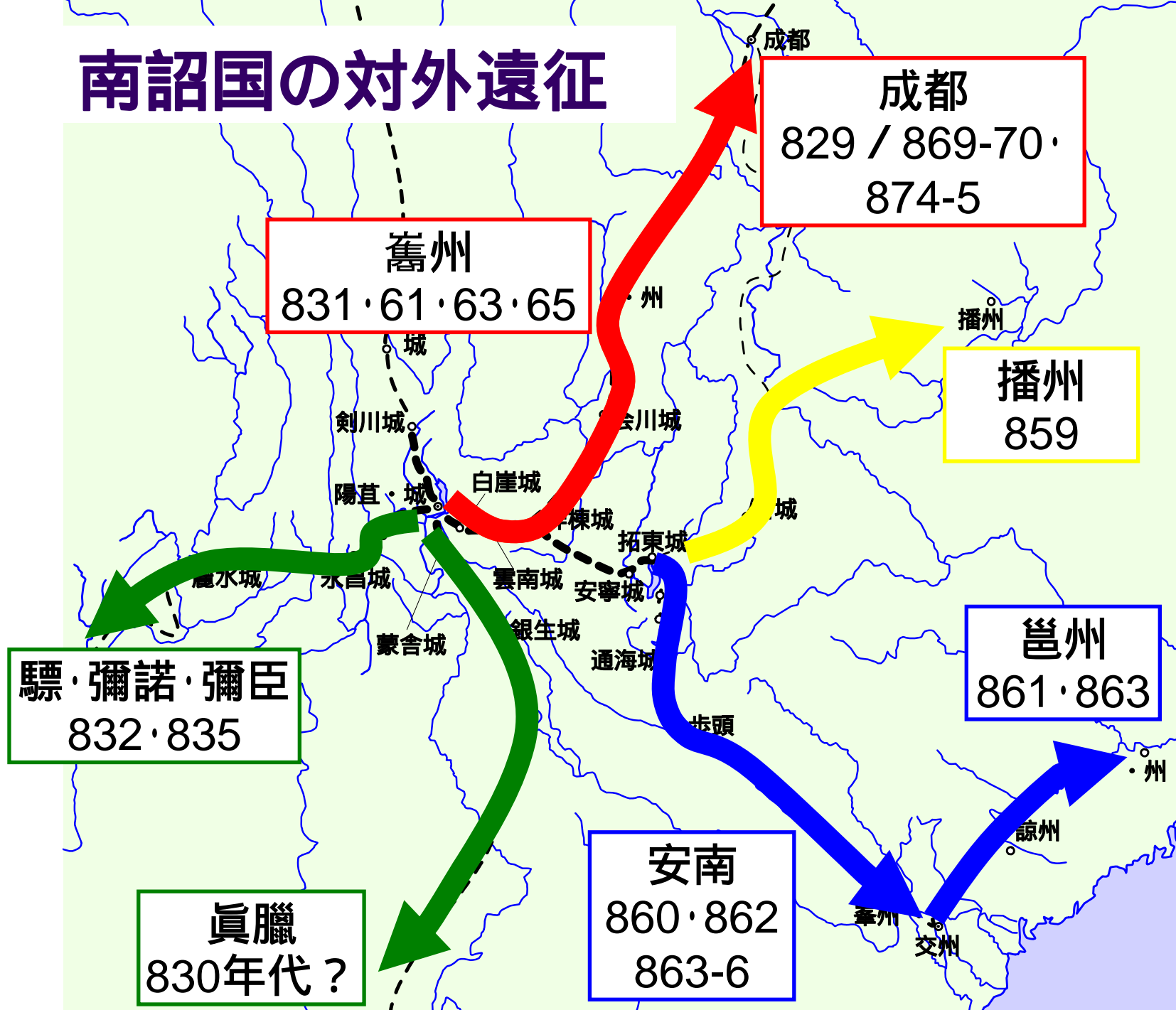
'93 8 11

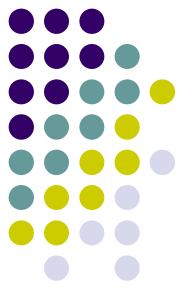


西川侵攻の主導的人物

- 驃信酋龍 (= 世隆)
驃信は南詔王の称号 (語義不明)
- 坦綽杜元忠
坦綽は清平官の別称
『通鑑』「用事之臣」: 清平官の中でも筆頭?
「坦綽杜元忠、日夜酋龍に全蜀を取らんことを教う」
(『新唐書』南蛮伝中)
- 「清平官董成等十九人」(西川節度使への使者)

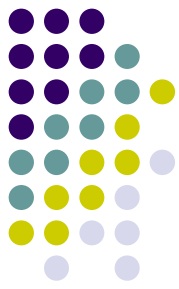
南詔国の対外遠征





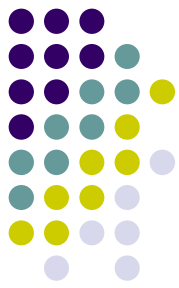
対唐遠征の終息

- 877.2 世隆(酋龍)没し、子の隆舜(法)継ぐ
「辺患を為すこと殆ど二十年、中国これが為に虚耗す。
而して其の国また疲弊す」(史料9.12)
 - 「酋龍年少(わか)くして殺戮を嗜み、親戚の己と異なる者は皆な斬、兵出でて寧歳無く、諸国更に讎忿、しばしば衆を覆し、国耗虚たり」
(『新唐書』南蛮伝中)
- 国内にも少なからぬ反対派？



講和使者の往来

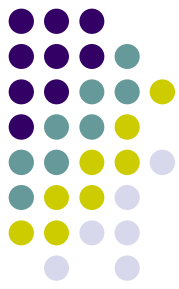
- 877.2 陀西段瑳宝を嶺南西道(邕州)に遣わし講和を求める(史料9.12)
- 878.4 酋望趙宗政を西川へ遣わし和親を請う
「無表、但令督爽牒中書、請為弟而不称臣」(9.13)
- 879.2 徐雲虔、嶺南西道より善闡城(昆明)に至り、驃信(=隆舜)と会見(9.14)
「驃信見大使抗礼、受副使已下拜」
「驃信以木夾二授雲虔、其一上中書門下、其一牒嶺南西道、然猶未肯奉表称貢」



対唐遠征の動機・目的

諸説あり, 定説なし

- 略奪戦争(人的・物的)
- 領土拡張
- 南詔王の権威低下を食い止める
- 王族蒙氏(= 奴隸制段階)と
支配下の白蛮(= 農奴制段階)の間の階級矛盾

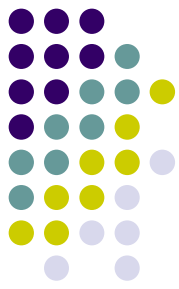


対唐遠征の動機・目的

- 世隆が皇帝号を称し、建元(開戦前)
- 使者に「抗礼」を要求(戦中)(史料9.8)
- 「表」「貢」など臣下 唐皇帝への形式を使わず、唐と「兄弟」「舅甥」関係を要求(戦後)(9.13-15)
- 公主降嫁の強い要求(史料9.16-19)

かつての唐 - 吐蕃と同様の関係を指向

軍事遠征はそのためのデモンストレーション？



両方面(安南 / 成都)の経過から

- 共通点:
直接の契機は唐軍の周辺民族に対する横暴

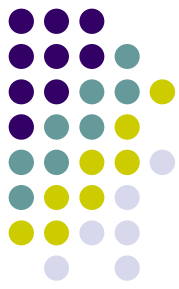
唐朝辺境における緊張感の喪失
(吐蕃の衰退・唐朝じたいの衰退)
- 相違点:
両方面の直接指導者
安南: 善闡節度使とその管下(楊氏・段氏中心)
成都: 南詔王(世隆)の親征、坦綽杜元忠



滇池地区の地位上昇

- (とくに安南侵攻の状況から)
雲南東部(滇池地区)の地位上昇が見てとれる

(雲南地方に古来存在した二つの中心のひとつ)
- 滇池地区で楊氏・段氏をはじめとする「大軍将」
クラスの統治者が大きな力を持つ
- ただし南詔王が頻繁に滇池地区に滞在している
事実もあり、**完全な「東西分裂」とはいえない**



蒙氏の権威の相対化

唐との関係が蒙氏の権威の源泉となりえなくなる
(西川における待遇低下・世隆の冊封拒否)

軍事遠征

- 対外的: 唐に対する実力誇示
- 対内的: 唐からの高い待遇を勝ち取ることで
競合する勢力に対する優位性を確保



蒙氏の権威の相対化

- 豊祐・世隆期は対唐戦争を強行する力量を南詔王が保持(王嵯巔・杜元忠ら主戦派の支持?)
- 隆舜期にはそのような動きは影をひそめる
 - 遠征の失敗? による主戦派の交代
 - 滇池地区の地位上昇
- 別の方法で南詔王の権威維持を画策(戦後の公主降嫁へのこだわりもその一つ?)